

諏訪市郊外の霧ヶ峰高原にある旧御射山神社で27日、例祭があった。地権者の上桑原牧野農業協同組合の役員やハイカーら約40人が参列し、五穀豊穡や地域安泰を祈った。平和を願う演武の奉納もあり、往時に思いをさせた。玉垣の四隅にススキの穂を掲げ、前島正宮司が祝詞をあげた後、参列者が玉串をささげた。続いて、甲陽流兵法富士見町錬誠館道場の伊与久松風さん(50)と宮坂春慶さん(22)が戦鎌の演武を初めて奉納。新陰流兵法諏訪稽古会の三好妙心さん(44)と春日玄さん(39)も所作を披露した。伊与久さんは「武道の聖地で演武できていることに感謝します」と

平和を願って 例祭 演武の奉納も



神前で演武を披露する新陰流兵法諏訪稽古会

語り、平和な世界を願った。一帯は、諏訪神社下社の大祝金刺氏の禁猟地で、古来から御狩神事が行われた。鎌倉時代には幕府の保護を受けて大祭が営まれ、諸国の武將が武芸を競い、自らの領地に諏訪神社を勧請した。前島宮司は「諏訪神社

霧ヶ峰高原の旧御射山神社

が全国に広まった貴重な場所です。往時に思いをはせて」と語り掛けた。

上桑原牧野組合の宮坂正組合長(66)は「災害がなく、五穀豊穡で皆さんが健康で暮らしていただけるように願いました」と話していた。

(唐沢宏)